



クローズアップ CLOSE UP

新年駅伝今年も本市で

元旦恒例のニューイヤー駅伝を今年も本市を発着点に開催。新型コロナウイルス感染症感染防止のため、今年は無観客で開催されました。空っ風が吹きすさぶ中、日本のトップ選手たちが7区間100kmの上州路を快走。大会は富士通が制し、12年ぶり3度目の日本一に輝きました。

本市の未来の姿を語る

12月に臨江閣で2つのシンポジウムを開催しました。最先端のデジタル技術を活用して時間と心のゆとりある生活を目指すスーパーシティ構想と、官民連携で策定したアーバンデザインをそれぞれのテーマに、本市の未来の姿を市民と共に語り合いました。



スーパーシティシンポジウム



アーバンデザインシンポジウム



模擬議会で市政身近に

12月17日、市議会の本会議場で市立前橋高が高校生模擬議会を開催しました。2年の代表生徒18人が議員になり、市長や各部長に施策の見通しなどを質問。市政への関心を深めました。ころとんパークの運営やフリーWi-Fiの設置など、高校生ならではの提言もありました。

中央公民館で2つのサークルを長年運営してきた入澤さん。本市出身の夫の定年退職を機に本市へ移り住んだ。「夫が地元に戻りたいと言っから付いてきたけど最初は知り合いが全然いなかったの」そこで自治会の婦人会に参加。食生活改善推進員になったのをきっかけに自治会サロンで料理を披露し始めたところ、参加者にとっても喜ばれた。「いいと思うことはすぐ実行に移す」と言う入澤さんは、平成13年度にはフラダンス、平成25年度には健康マージャンのサークルも立ち上げた。「食事付きサロンもサークル活動も、長く続けてこられ

たのは開催日を心待ちにしてくれる人があるから。夢中これまでやってきたのよ」しかし、本年度はサークル開催もままならず、恒例だった福祉施設への訪問もできなかった。それでも入澤さんは、月に1度はメンバーに電話し声を掛けるなど、今できることを前向きに実践している。「いろいろなやってこられたのも自分が健康ということ、それと、みんなが喜んでくれるからね」と入澤さん。今では多くの友人がいるのも、人を喜ばせることが自分の幸せという人柄ゆえんだ。これからは笑顔が絶えない。

みんなの喜ぶ顔が人生の原動力

いきいき
まえばし人

公民館・サロン活動に長年尽力
入澤 玲子さん・82歳
紅雲町二丁目



都市部から前橋へ生活を移し、市内各所で活動する地域おこし協力隊。このコーナーでは、隊員が交代で日頃の活動を紹介します。今回は橋本大介隊員です。

昨年8月から地域おこし協力隊として赤城南麓エリアを中心に活動を開始し、5カ月が経ちました。新型コロナウイルス感染症の影響で例年開催されていたイベントの中止が相次ぎ、地域活動が思うようにできない状況でのスタートとなりました。

前橋に移住する前は、東京で10年ほど子どもから大人まで幅広い世代に運動指導をしていました。そこで培った知識と経験で、地域行事ができない今だからこそ何か地域に貢献できないか

暮らし課
☎027・898・6510



染色体験用のマリーゴールド摘み



地区公民館での運動講座

かと考え、公民館などと相談する日々。そのかいもあって、4つの地域でウォーキングや軽体操を中心とした講座を開催することができました。

運動は心と体を元気にする源です。健康寿命を延ばすことは地域の活気につながると思いますが、まだ始まったばかりですが、他の地域にも行き、前橋を活性化できるような活動を続けていきたいと思っています。